SIASR　（Saitama Infectious Agents Surveillance Report）

夏型感染症からのエンテロウイルスの検出状況

夏型感染症のうち、特に小児において多く見られるのがヘルパンギーナと手足口病です。これらは主にエンテロウイルス感染によるものですが、年により異なる血清型のウイルスが流行の主原因となります。この 2 疾患の 2000 年から 2005 年までのコクサッキーA 群ウイルス（CA）及びエンテロウイルス（EV）71 型の検出状況を表１に示しました。

ヘルパンギーナでは、6 年間をとおして毎年検出されたウイルスはありませんでしたが、数種類の血清型の CA が数年おきに検出されています。また、2001 年や 2003 年のように検体数が多い年には検出される血清型も多くなっています。全国のウイルス検出状況をみると毎年複数の血清型のウイルスが検出されていることから、県内の流行ウイルスを正しく把握するためには、ある程度の検体数を確保することが重要と思われます。

手足口病では、2000 年と 2003 年に EV71 型が流行したことがわかります。CA 16 型は毎年検出されますが、2001 年に特に多く検出されました。2005 年の特徴は、ヘルパンギーナと同様に CA6 型が検出されていることです。

CA は培養細胞によるウイルス分離が困難なため、検査はほ乳マウスによるウイルス分離や遺伝子検査を組み合わせて実施しています。多くの検体について検査することにより、重症化するウイルスの把握等様々な情報を得ることが可能となります。病原体検査定点の先生方には、検体採取をよろしくお願いいたします。

表１　ウイルス検出状況

採取年		2000		2001		2002		2003		2004		2005	
疾患名		H	HFMD	H	HFMD	H	HFMD	H	HFMD	H	HFMD	H	HFMD
検体数		17	30	32	19	11	23	19	38	10	11	13	16
検出ウイルス	CA2			11						3			
	CA4	1						12					
	CA5			6									
	CA6			1		9	1					7	3
	CA8			2									
	CA9										1		
	CA10	7						2				1	
	CA12							1					
	CA16		5		16		7		5		7		4
	EV71		10				2		21				

H：ヘルパンギーナ　HFMD：手足口病　　2005 年は 9 月 7 日現在の数